

## 第32回イオン環境活動助成 活動報告書（上期）

報告対象期間：2023年4月1日～2023年9月30日

団体名	群馬ナチュラリスト自然保護協議会
活動タイトル	里山に生息する生物と地球環境との関係を調査・観察し、教育普及活動を行う。
活動地域	群馬県立榛名公園



7/20～7/26 榛名の写真展（観察会も実施）

### 【活動の目的・目標】

生き物や生態系の豊かさを表す言葉に、生物多様性があります。里山（県立榛名公園）の現状を確認し、わかったことを写真展や自然観察会等で伝えることを目標としている。

さらには、その結果を受けて、保護や保全の必要性が出て来る内容もあり、それを市民と共に活動を通して再生を図って行くことを最大目的にしている。ここでは、ササ刈を通して草原の再生をすすめ、絶滅種のチョウを守る活動がある。



7/29 自然観察会（8/4 は別団体で実施）

### 【今回の活動で苦勞した/工夫したこと】

- ・写真展に出す写真画像やパネル資料を作成すること。また、事前のデータの蓄積。
- ・自然観察会では、全会員が参加者への説明や指導が出来るように指導力を上げること。
- ・フジバカマ園に飛来する教育効果の高いアサギマダラの生態を学び、小学校を含めた地域づくりを実践している団体へ、適切な協力や指導助言を進めること。
- ・危機的な地球環境の実態を、自分事としてとらえられるよう意識の共有を図ること。



8/1 教育普及活動としての講演（3地区で）

### 【活動の内容・成果】

開催回数：

参加人数：

達成率：

#### ○榛名の写真展

開催回数 夏季に1回。

参加人数 会員20人、来場者346人

達成率 95%

#### ○高山蝶や高山植物を知る自然観察会

開催回数 夏季に2回。

参加人数 会員7人、参加者25人

〃 会員8人、参加者24人

達成率 100%

#### ○三地域に、フジバカマ園を作り、秋の南下個体（アサギマダラ）の生態観察とマーキング調査 9/23

参加人数 参加者30人、会員5人

10/3と10/7（実施予定）

参加人数 参加者 人、会員 人

参加人数 参加者 人、会員 人

### 【団体概要】

榛名の里山には、様々な課題があります。そこで、自然保護・保全活動を通して、生物多様性の保全の大切さを伝えることを主目的とし活動を展開している。

①市民にとっての共有の場『榛名自然館』を作り、課題解決を含めて市民の手でその運営を進める。

③草原環境の変化から、絶滅に追い込まれている昆虫や草原性植物の保全活動を行う。

## 第32回イオン環境活動助成 活動報告書（上期）

報告対象期間：2023年4月1日～2023年9月30日

こちらに、1ページ目の以外の活動写真を添付し、右側に説明をご記入下さい。



◆「森林や草原の生態系の変化から地球環境を考える」の取り組みその①

・林道の環境に依存して生きて来た・海を渡る神秘的アサギマダラが、昨年の異常気象により個体数減少という影響が出ている。二年目も異常気象が続く中、回復することが出来るのか生態観察を継続している。地球環境の視点からとらえる観察会も実施している。



◆「森林や草原の生態系の変化から地球環境を考える」の取り組みその②

・地球温暖化等の影響により草原の乾燥化が進んでいる。そうした中、草原性植物の復活がなよりの課題となっている。ササ刈により光条件を向上させるだけで、ユウスゲをはじめ28種類の草原性植物が一斉に埋土種子を発芽させてきた。この成果は大きい。



◆草原の生態系を、チョウと植物の関係から観た時、絶滅危惧種が増え続けている。その調査から、種の保存法に指定された蝶（コヒョウモンモドキ）の飼育増殖を進めることにした。環境省の許可のもと進めており、いずれ野生復帰の許可が下りた時には、かつて生息していたこのエリアにも放蝶する予定である。



◆該当する教育委員会主催の「身近な地域の自然教室」への指導協力。

秋の七草であるフジバカマに飛来する蝶（アサギマダラ）の生態観察やマーキング体験を行う。子供たちへの生き物と触れ合う実体験を通して、生態観察の重要性和里山の生き物と自然環境を考える機会とする。